特定非営利活動法人アンダーウオータースキルアップアカデミー

令和５年１１月期 事業報告書

1　事業の成果

・　（公社）日本水難救済会の救難所として活動を始めてから8年となり、水難事故発生時の現場での対応・合同訓練・連絡会等を通じて関係機関との連携がさらに深まった。本年度の水難事故発生時の出動件数はこれまでで最多の16件となったが、ダイバーだけでなく釣り人等も含めて、数人の事故者の命を救うことができた。

2　事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事　業　名	事 業 内 容	(A) 当該事業の実施日 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数
① 水難救助に関する事業	水難救助活動	(A)R.4年12月～R.5年11月 (B)伊豆半島全般 (C)のべ31人	(D) 海中落水者・潜水事故者 (E)救助者7人
	救助員のスキル向上訓練	(A)R.5年1月24日・6月9日 (B)横浜海上防災基地・伊豆海洋公園 (C)2人	(D)当法人の救助員 (E)32人
	水難事故対策に関する関係機関との連絡会	(A)R.5年4月27日・6月7日・7月5日 (B)下田（伊豆漁協）・伊東消防・東伊豆消防 (C)9人	(D)水辺を利用する市民 (E)不特定多数
	消防の水難救助隊の海洋訓練を支援	(A)R.5年6月30日・7月7日7月14日 (B)伊東市城ヶ崎海岸沿岸 (C)3人	(D)駿東伊豆消防本部水難救助隊第3方面 (E)約30人
	関係機関との合同水難救助訓練	(A)R.5年7月18日・9月25日～27日 (B)東伊豆町北川港・伊豆海洋公園 (C)のべ26人	(D)水辺を利用する市民 (E)不特定多数
	各機関の救助員向け潜水技術研修の開催	(A)R.5年10月23日～28日 (B)伊豆海洋公園・赤沢 (C)8人	(D)全国の消防の水難救助隊 (E)6人

事　業　名	事 業 内 容	(A) 当該事業の実施日 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数
（続き） ① 水難救助に関する事業	落水者防止の看板設置支援	(A)R.5年9月1日 (B)伊東市城ヶ崎海岸 (C)2人	(D)水辺を利用する市民 (E)不特定多数
② 災害発生時の水際における救援・復旧事業	（活動が必要となる事案がなかった）		
③ 被災後の水産業等復興支援事業	（活動が必要となる事案がなかった）		
④ レジャーダイビングの安全を図る事業	（① 水難救助に関する事業「救助員のスキル向上訓練」を参照）		
⑤ 水辺の環境保全を図る事業	環境保全を図るための地域の水中清掃を実施	(A)R.4年12月16日 (B)神奈川県芦ノ湖 (C)2人	(D)水辺を利用する市民 (E)不特定多数